

日本学術会議 防災減災学術連携委員会委員長

防災学術連携体 代表幹事

米田雅子

本日は、お忙しい中、多くの皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。昨日、東日本大震災から8年目を迎えました。被災地の復興に向けた長い道のりを思う時、大災害による悲劇を繰り返してはならないと、改めて思います。

東日本大震災以降、毎年のように災害が発生しています。特に昨年、平成30年の夏から秋にかけてはひどい状況でした。6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨、8月の記録的猛暑と台風の連続発生、9月の台風21号は、百の地点で強風記録を塗り替え、関西国際空港を孤立させました。9月の北海道胆振東部地震は山地崩壊や北海道全域のブラックアウトを引き起こしました。

防災学術連携体、57学会と日本学術会議は、分野を超えて連携し、ホームページに特設ページを設け、緊急集会、市民へのメッセージ、報告会を開催して参りました。

本フォーラムでは、平成30年に焦点を当て、各学会の調査結果を発表します。今後、気象災害の連鎖にどう備えれば良いのか、地震と気象の複合災害にどう備えれば良いのかを、各分野の専門家の知恵を集めて考えていきたいと思えます。

最後までどうぞよろしく申し上げます。